

松本清張記念館

◆館報◆
1999.9
第2号

目次

- インタビュー 今村元市 …… 2
- 開館一周年記念事業 …… 4
- 特別企画展「清張と鶴外」から …… 5
- 展示品紹介 …… 6
- 探検！清張記念館 …… 6
- お知らせ …… 7
- 北九州文学マップ …… 7
- トピックス …… 8



扉はひらかれた！

清張初の長編推理「昭和三十三年二月から昭和三十三年三月まで雑誌『旅』に連載された単行本として刊行されるや、大ベストセラーを記録した出世作。また後に『社会派推理小説』とよばれる新分野の扉を開いた記念碑的作品。

作品介绍

福岡市「香椎湯」で、夕風にさらされて横たわる男女の死体が発見された。男はある汚職事件の渦中にあつた官庁の「課長補佐」佐山、女は料理屋の女中お時。現場の状況から判断して、誰もが「情死」（心中）と思つた。

福岡署の鳥飼刑事だけは心にひかかるものを感じてた。一つは、「御一人様」の列車食堂の伝票。「はるけき九州までの情死行」の途中なのに、女は男の食事に付き合ひなかつた？ さうに、女は男と二つ宿にとまらず、五日間男は電話を待ちつづけた。何故か？ 特急「あさかぜ」号には、実は佐山一人しか乗つてなかつたのではないか？ しかし目撃者がいる。

機械工具商安田辰郎と料理屋の女中たちである。東京駅十三番ホームに立つて、十五番線に停車中の「あさかぜ」に仲むつまじく乗り込む、佐山とお時を見たというのである。しかし間には十四番線があり、始終汽車が入りし停車している。調べると、十五番線をのぞけるのは、たったの四分間だけ。有名な「東京駅十三番ホーム、四分間のトリック」である。

警視庁の三原警部補もまた、この「情死」事件に疑問をもつた一人だつた。情死説を裏づけるほとんど唯一の証言、東京駅での四分間の目撃者にも「作為」を感じる。安田は「さりげなく目撃者をつつた」のではないか？ だが何のために？ …… 話を聞くと、安田は事件当日、北海道にいた。鉄壁なアリバイに思えた。

点と点の間に引かれた線は、実線か虚線か？ 遠くばらばらにある点と点も、実は見えない太い線で結ばれているのではないか？ 鳥飼刑事と三原警部補は協力して、事件の真相に迫っていくが…

(学芸担当 中川 里志)

門司の郷土史と清張作品に数多く
ちりばめられた俳句について詳しい、
今村元市先生にお話を伺いました。



インタビュー

松本清張『時間の習俗』と俳句

今村 元市

いまむら もといち

二松学舎専門学校(現二松学舎大学)卒業。
下関工業、戸畑高女、戸畑高校教員を経て昭和二十八年
から門司市立図書館に勤務。昭和五十年北九州市立中
央図書館創立にともない同館に転任。北九州資料室担当。
元梅光女学院大学助教授。現在、松本清張記念館運営
委員。郷土史家。大正十年二月門司生まれ。

「時間の習俗」の冒頭は、和布刈神事の
描写から始まります。その資料、門司郷土会
発行の『和布刈神事の話』は、今村先生が松
本清張先生に提供されたということですが、
まずその辺の経緯から教えてください。

「点と線」がヒットした後の話なんですけど、横
山白虹さんを通じて、和布刈神事の資料を貸
してくれと言ってきたんだよ。その時、おかし
なあと感じてね。というのも、清張さんは当時、
門司郷土会の会員だったわけだから、当然その
本は持っているはずなんだけど、でも手元にす
ぐ出てこなかったんだらうなあ、それでそういう
話が来たんで、すぐに送ったわけ。だから、雑誌
『旅』に『時間の習俗』の連載が始まった時、第
一話の掲載号が送られて来たよ。

横山白虹さんと清張先生とはどのよう
な繋がりがあったのでしょうか。

横山白虹さんは俳句で清張さんと交友が
あった人で、清張さんは白虹さんの奥さんであ
る房子さんの句集『背後』(昭和三十六年刊)
に序文を書いている。その中に、「私は横山白虹
さんと夫人房子さんとは、ずいぶん前からの知
り合いである。同じ小倉にいたというだけでは
なく、私の二十九歳のとき盲腸をとってくれた
のが白虹博士であり、また私の家内の方の因
縁もあった。そんなわけで房子さんには早くか
ら親しくしてもらっていてお人柄をよく存じ
上げている。」とある。清張さんの俳句の師匠
と言えば、博多の江口竹亭さんだけど、岩野登
三郎、橋本多佳子、西東三鬼さんなんかとも、
交流がある。



「時間の習俗」連載誌:『旅』(日本交通公社発行)

「時間の習俗」・・・・・・・・・・・・・・・・

旅行雑誌『旅』(日本交通公社発行)に昭和36年5月から37年11月
まで連載。単行本『時間の習俗』として昭和37年11月、光文社より刊行。

「点と線」に続き、警視庁捜査一課の三原警部補と福岡署の鳥飼
刑事が殺人事件の謎に迫っていく。

俳句は作中にもいろいろ出てきますが…。

そうそう、「時間の習俗」もしよばなから俳句で始まっている。「早朝の潮騒ぎの濱に和布刈るかな 雲屏」。この雲屏という人は、おそらく長瀬雲屏だろう。この人の和布刈神事の句が俳誌「雲母」の昭和八年三月号、雑詠の巻頭に載っているんだよ。その次にまた三句出てくるけど、これはそれぞれ違う俳人の作だね。例えば、「傾きて磐石にのる和布刈桶 晴」。この晴は久保晴だけ、門司の人だね、和布刈神事の俳句では日本のナンバーワンだったんだよ。ただ、「元」の句は「磐石にのりて傾く和布刈桶」で、少し変えてるけどね。

とにかく、「時間の習俗」には、俳句の雑誌もいっぱい出てくるけど、これも知らない人には書けない。ほかにも俳句や俳人が登場する作品はたくさんある。作中の句はほとんど清張さんの創作のようだけど、これから考えると清張さんは相当、俳句の素養がある。朝日新聞西部本社時代から、社内句会にも出てたらしいね。

清張さんが特に好きなのが「わが道は行方も知れず霧の中」という句で、自信作だったん



和布刈神事

だろうね。「昭和文学全集」の第一巻（昭和三十六年十月刊）の巻頭に書いている。

——清張先生の俳句観は？

横山房子さんの句集の序文に、こう書いてある。「私は文章を書いているので、他人の対象の捉え方や観察の角度については神経過敏である。ことに心理描写を内面からでなく、外へ向う視点で無駄なく表現しているものには、シヨクさえ感じていつまでも忘れることができな

俳句のような短い文句を色紙に描いた絵につけたりする、あれも一種の俳句だね。即興的に作るのがうまいのよ、あの人は。俳句に打ち込んでいたから素養がある。それから、万葉集にもかなり関心持っていたよだね。短詩系文学が好きだったんだらうけど、そう言えば、詩は書いてないなあ。

清張作品は一つの文章が短くてね。それが俳句の行き方なんだよ。センテンスを短くしてね、トマトッと畳み込んで行く、スピード感があって、畳み込んで行くから、パババッと読者に迫ってくる。そこがいいんだ。だから「時間の習俗」はアリアイ崩しの謎解きもそうだけど、九州の情景もテンポよく描かれていて、読者も一緒に旅をしているように興味を尽きない。

終章で鳥飼刑事が「この事件は門司の和布刈神事に始まって、潮来のあやめ祭りに終わろうとしています。まるで事件は土俗の行事から行事にわたっているようなもんですな」と、言っているように、俳句もまた土俗の文芸だと思

平成十二年七月二十九日

松本清張記念館にて
構成 学芸担当 藤原 礼

Book Review

『清張ミステリーと昭和三十年代』 藤井淑禎著・文春新書

本格的な清張論である。これまでの大づかみな総論的清張論ではなく、新しい視点で具体的かつ詳細に論じられた第一級の論考と思ってい過ぎではないと思う。そして何より一般の読者にも楽しく読める、肩ひじ張らない文体である。清張ファンにとって待望の一冊だ。

松本清張が最も創作意欲を燃やし、社会派推理小説家としての路を切り開いた昭和三十年代は、現在からみれば、すでにはるか彼方の時代でもある。著者は、その（時代）の地層に降り立ち、考察することによって作品の中の事件の背景と犯人とのかわりをより深く読み解こうとする。結果、読み解けない部分は不可解な人間の不偏的テーマとなる。

敗戦から立ち上がり、欲望のうずまく高度成長期の時代を描いた作品に焦点をあわせ、実証やデータで検証する方法が、逆に登場人物の心の暗部まで鮮明に浮き彫りにすることに成功し、清張作品のあらたな魅力を伝えている。

（松本清張研究会 田中伸和）

目次

- はじめに
- 高度成長期と清張ミステリーと
- 第一章 映画館の見える風景
- 第二章 「砂の器」
- 第三章 通勤サラリーマンたちの東京
- 第四章 「発作」「潜在光景」
- 第五章 小売店が元氣だった頃
- 第六章 「坂道の家」
- 第七章 変貌する湯治場の男と女
- 第八章 「誤差」
- 第九章 愛と性の考古学
- 第十章 「憎悪の依頼」
- 第十一章 「人妻」の「貞操」をめぐる物語
- 第十二章 「危険な斜面」の「小官僚」たち
- 第十三章 「点と線」



社会派推理の領袖、松本清張と
激動の高度成長期。数多の
傑作として結実した、両者の
濃密な相互交渉を読み解く
文春新書

定価(本体660円+税)



また今年、森鷗外が小倉に赴任して百年目の記念の年にあたり、北九州市では関連行事を繰り広げているところ。開館一周を祝うとともに、鷗外来倉百年を記念し、当日、第一回松本清張研究奨励事業・研究奨励金贈呈式と、記念講演・シンポジウムを開催しました。

開館一周年 記念事業

松本清張記念館



八月四日、松本清張記念館は開館一周年を迎えました。開館から一年、おかげさまで全国からの入館者も十八万人（七月末）に達しました。



●日時…8月4日 14:00～ ●会場…北九州市立女性センタームーブ(ホール)

シンポジウム

『松本清張にとって鷗外とは』

松本清張という大きな存在、その文学にどう迫るか。「森鷗外」をキーワードに各先生方がそれぞれの切り口で迫りました。

パネリスト



山田有策 (東京学芸大学教授)
「漱石という鏡で清張を照らし出すと、そこにはくっきりと鷗外の影が落ちている」



藤井淑禎 (立教大学教授)
「清張と菊池寛の間に影響関係がある。寛は鷗外の歴史離れものに影響を受けている、というわけで、この三者はつながる。…初期は無自覚で、そして、晩期は自覚的に清張は歴史離れものから歴史そのままのへという鷗外の足取りを自らたどった」



赤塚正幸 (北九州大学教授)
「調べて書くことを自分の方法とする清張自身の意識が、鷗外の作品についての関心のあり方にも反映している」

コーディネーター



花田俊典 (九州大学教授)
「松本清張という、一人の人間でも、あるいは一人の物語でも構いませんけども、それを視点にすると、実は、とてつもなく大きな問題に、多分、いろんなことが広がっていってしまう。そういう松本清張という存在を一つの鍵としながら、もう一度問い直してみる作業は、やっぱりこれからなんだろうという気がします」

記念講演

『森鷗外と松本清張』

約400名の参加者を前に、講師の平岡敏夫先生(筑波大学名誉教授)は、松本清張と森鷗外を結びつけるものは「不遇への共感」だと話された。最後に「松本清張という人を我々は本当に研究し、もっともっと国民の中に、また文学史の中に位置づけて、その魅力をこの北九州市の松本清張記念館を拠点として研究していかなければならない」とまとめられました。



講師 平岡敏夫 (筑波大学名誉教授・日本学術会議会員)

(記念講演・シンポジウムの記録は、平成11年度末発行予定の記念館研究誌「松本清張研究(創刊号)」に掲載の予定です。)

第1回 松本清張研究奨励事業 研究奨励金贈呈式

「松本清張研究奨励事業」は、松本清張研究の推進と後継者の育成を目的に、昨年十二月二十一日創設されました。第一回目は全国から三十九点の研究企画の応募があり、選考委員会の厳正な審査の結果、二点が入選に決まりました。選考委員は、筑波大学名誉教授 平岡敏夫先生、東京学芸大学教授 山田有策先生、立教大学教授 藤井淑領先生、藤井康栄記念館館長にお願いしました。八月四日午前、記念館地下ホールで研究奨励金贈呈式が行われました。式には、当事業のために寄付をいただいた松本ナヲ夫人も出席され、末吉興一北九州市長から入選者に研究奨励金が贈呈されました。



◇「清張文学の基層 - 菊池寛の方法と立場」研究奨励金 150万円

石川 巧 山口大学人文学部 助教授
谷口 基 立教女学院短期大学 非常勤講師
新城郁夫 琉球大学法文学部助教授
安 智史 愛知大学短期大学部 専任講師
前田 潤 立教大学大学院 博士後期課程
宮崎睦之 立教大学大学院 博士後期課程 (敬称略)

◇「松本清張氏は、「哲学館事件」(「小説東京帝国大学」)に何をみたのか?」研究奨励金 30万円

衛藤吉則 新見公立短期大学助教授 (敬称略)

特別企画展 「清張と鷗外」から

開催初日の六月十九日は、ちょうど百年前、鷗外が初めて小倉の地を踏んだ日でした。この日、北九州市主催の記念講演会に出席するため訪れた森憲・美奈子ご夫妻、ドイツ森鷗外記念館副館長のヘアーテ・ヴェーバーさん、北九州市出身で本年の芥川賞受賞作家、平野啓一郎さんが来館されました。

松本清張は昭和二十七年に、鷗外の長男、於英氏と対面しています。やはり鷗外の記念行事のため小倉へお招きした時でした。企画展では、その際清張が、於英氏を囲む会に出席している写真などを展示しました。於英氏の二令孫である美奈子さんは、これを懐かしそうにご覧になっていました。

小倉において、直接時間を共有することはなかった二人の作家ですが、時を越えて両者をつなぐ点はいくつもあります。「小倉」という体験は、その風土や文化において共通し、清張にとって鷗外が生涯のモチーフとなり得た、起点といってもいいでしょう。

あらためて、鷗外清張における「小倉」の意味、そして清張にとつての鷗外について、「関心がわいた」という来館者の声に励まされると共に、「続編を望む」という言葉にむち打たれる思いです。

学会担当 林 曉子



森憲二・美奈子ご夫妻



右:ヘアーテ・ヴェーバー氏
左:平野啓一郎氏



【展示内容】
今回は、「ふるさと小倉」シリーズの第二回目として、鷗外の小倉時代の生活や足跡を紹介し、清張が作品の中で鷗外をどのようにつづらせたか、また調査したか等に触れ、清張文学における鷗外への関わりを探った。展示品は、森鷗外に関する資料や、「或る小倉日記」から「両像・森鷗外」まで、鷗外を扱った清張作品、足跡地図(館作成)、「或る小倉日記」の背景に関する資料など。

清張愛用のモンブランの万年筆



右から2、3本目がマイスターシュテックNo.148、5、6本目の大きなものが原型のNo.149、左側9本がクラシックタイプ。

これは、昭和四十九年の「文藝春秋」十二月号に掲載された「私の選んだベストブランド」という広告企画の中で、清張がモンブランを紹介した文章です。
 実際、記念館に移した清張の書斎には、今でも数本のモンブランが引き出しの中に眠っていますし、ケースに展示している万年筆だけでも二十本あります。また、ペンが少しでもひっかかると取り替えてい

わたしは年来、万年筆としてはモンブランを専用に使っている。
 万年筆はわれわれにとっては手の一部で、調子が悪いと仕事ができない。手に万年筆があるのを意識しないくらいにスムーズなのが理想的だが、モンブランはだいたいこれに添えてくれている。
 それで、わたしの机の中にはモンブランだけが十本ばかりある。

たくさんの所蔵の中には、人から贈られたものもあるようです。藤井康栄館長によると、清張は、海外のお土産によくモンブランをリクエストしていたそうです。「あれはもしかしら、何を買って帰ったらいいか悩まなくても済むように、先生なりの思いやりだったのかもしれないわね」と、当時を振り返る藤井館長。その言葉に、深い部分で心の交流があった人のみ語る、清張の優しさを聞いた気がしました。

学芸担当 林 咲子

しかし、主に執筆に使用していたのは、同じマイスターシュテックでも、クラシックシリーズとよばれたものだったといえます。こちらはいわばモンブランの実用品として開発され、やがて一種のモデルとして確立しました。現に展示されている万年筆のうち十三本はクラシックタイプで、中にはキャップが金張り、銀張りのものもあります。

モンブランといえばマイスターシュテックが有名で、「文藝春秋」の広告記事に使用されているのもこのタイプです。この黒く艶やかで伝統を感じさせるマイスターシュテックは、九四年に初めて発売され、九四八年、若十のモデルチェンジを受けて以来、今日まで全く変わらぬデザインを受け継いできました。基本形のNo.149、やや小さくしたNo.146、いずれも清張の所蔵品にみられます。

たという逸話があるくらい、その書き味にはこだわったようすです。



きよしとハルコの探検! 清張記念館

“1F 推理劇場「『火の路』へ」”の巻



伎楽面▶
(大正時代の複製)



きよし するどいね。あの小説の中の古代史研究者の論文は、実は清張自身の「ベルシアン飛鳥渡來說」なんだ。

ハルコ ということは、これは古代の推理なのね。

きよし ビンボーン。じゃ、中に入ってみよう。

ハルコ 何か古そうなお面がある。これって飛鳥時代の伎楽面?

きよし そう、これもこの話の重要なポイントの一つで、映画にも登場するよ。
 それにしても清張は元デザイナーだけあって、造形に対する洞察の冴えはさすがだね。清張の説によると……

ハルコ あっ、始まるわ。あとは映画で見るからその先は言っちゃダメ

きよし そんな〜。自慢しようと思っていっぱい調べたのに…。

ハルコ 推理劇場? サスペンス物でもやってるの。

きよし ブー。残念でした。
 そうだなあ、「『火の路』へ」ってところがヒントかな。

ハルコ えーっと、確か、「火の路」ってタイトルの小説がなかった?

あなたを古代のナゾへと誘う「推理劇場」は、1F常設展示室の一番奥の真っ赤な入り口が目印。10:00から30分おきに上映されています。(上映時間:約20分)

お知らせ



皆さんで、清張作品の感想を話し合ってみませんか？

読書会 参加者募集

記念館では、1月から2月にかけて読書会を行う予定です。第1回目は「時間の習俗」など地元を舞台とした作品が中心。講師による作品解説もあります。詳しくは、市政だより・ホームページ等でお知らせいたします。



映画上映

10・11・12月スケジュール

10月

山田洋次 監督・脚本作品集
「ゼロの焦点」「霧の旗」「砂の器」

11月

21日(日)～28日(日)
時代劇特集「無宿人別帳」

12月

5日(日)～12日(日)
松本清張 生誕記念
記念館オリジナル映像上映会
「わが道は霧の中」

- 上映の詳しい日程については記念館にお問い合わせ下さい。また、館内において予告チラシを配布しておりますので、どうぞご覧下さい。
- 上記の日程以外の日も、可能な限り上映を行います。

喫茶「石の館」



地下におりと落ち着いた木のテーブル。
店内には清張の色紙や年賀状が飾ってあり、窓からは石畳の庭が見えます。
人気のケーキセットをはじめ、紅茶、ビールに軽食もご用意しています。
また、予約いただければ懐石弁当などもできますので、お気軽にお問い合わせ下さい。清張の世界でゆっくりお過ごし下さい。

石の館 TEL.093-583-8558



- 1 林芙美子資料室 (旧門司三井倶楽部2階)
作品や愛用品などを多数展示。建物は大正10年建築、国の重要文化財。
- 2 林芙美子資料館 (国際海運会館1階)

北九州文学マップ
林芙美子と古里—関門海峡

——いつくにか吾古里はなきものか——
芙美子の詩「掌草紙」の一節は、彼女のふるさとに寄せる思いの深さをにじませている。
昭和初期から戦後にかけて活躍した芙美子は「放浪記」の中で下関生まれと記している。しかしその後、実は門司に生まれ、裕福に育ち、西洋の音楽や絵画を愛していたという、それまでのイメージとは異なる芙美子像が見えてきた。門司に生まれ、下関で幼少期を過ごした芙美子にとって国際航路の船が行き交い、異国の風が薫る

関門海峡こそが真のふるさとであったと言えよう。
林芙美子と松本清張、何の接点もないように見えるこの二人だが、ともに幼い頃この海峡を挟んで暮らしている。しかも大正二年から三年にかけて同じ場所、下関市の旧田中町に住んでいたのである。当時、芙美子は十、十一歳、清張は四、五歳であった。それぞれ戦前と戦後を代表する作家がともにこの海峡を見守ったという偶然、二人の幼い目にはこの海峡はどう映っていたであろう。

(藤澤)



イラスト：山崎 肇二

編集・発行 松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
制作 (有)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円) 小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR:小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
バス:小倉北警察署前/NHK前下車
車:北九州市都市高速、大手町ランプより5分



企画展のお知らせ

松本清張「時間の習俗」
(仮題)

長篇ミステリー「時間の習俗」の原稿、掲載誌などの資料を中心に、企画展を行います。

会期：平成11年12月中旬(予定)～平成12年3月31日(金)
会場：常設展示室出口/2階エレベーターホール

松本清張研究奨励事業



第2回募集中!

松本清張研究奨励事業は、清張の作品や人物についての研究活動を推進し、歴史や社会の事象の深層を追求する精神を継承していくため、松本ナヲ夫人のご厚意により創設された事業です。(第1回の研究奨励金贈呈式の記事が4ページにあります)

募集要項

- 対象 ● ジャンルを問わず、松本清張の作品や人物像を研究する活動や、松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究、編集、出版等)で、これから行おうとするもの。年齢、性別、国籍は問いません。ただし、未発表に限り、個人または団体も可。
- 内容 ● 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。金額は企画内容を検討して決定します。
- 応募規定 ● 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容がわかる企画書、予算書など(様式は自由、ただし日本語)を平成12年3月31日までに応募してください。
- 選考 ● 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。
- 発表 ● 審査終了後、審査結果を直接通知します(6月末頃)。なお、入選者には開館記念日(8月4日)に、北九州市で贈呈式を行います。
- その他 ● 採用された企画は翌年の開館記念日までに実施成果を報告していただきます。また、成果品である研究論文、報告書は記念館刊行の研究誌に掲載、発表いたします。成果品にかかる著作権等諸権利は、北九州市に帰属します。
- お問い合わせ ● 松本清張記念館 TEL093-582-2761

担当 中川

◆編集後記◆

昨年八月に開館して一年余り、当初の予想を大きく上回る、二十万人の方に来ていただき、ありがとうございます。館報では、清張作品の紹介をはじめ館のみどころや展示品、特集でより興味を持っていただけるよう作っております。当初計画していたさまざまな事業も緒に就きました。これからも、どうぞよろしく申し上げます。みなさまのご意見、ご感想をお待ちしております。

編集担当 大西 政寛

●資料提供のお願い●

松本清張直筆の手紙・書画・写真などをお持ちの方は、記念館までお知らせください。

『松本清張研究』

創刊準備号発行

松本清張研究
創刊準備号

「戦後文学の潮流において特異な光彩を放つ松本清張の仕事の大山脈に、私たちは勇気を持って分け入ろうとしている。これほど大きな素材、これほど影響力を持つ作品を放置することはなく、そのエネルギーを継承し、未来へ繋げたいと願うのである。」
(まえがきより)

研究論文

- 松本清張研究について……………平岡敏夫(筑波大学名誉教授)
- 歌と石と植物と……………山田有策(東京学芸大学教授)
- 「天城越え」は「伊豆の踊子」をどう超えたか……………藤井淑禎(立教大学教授)

その他

- 松本清張と私……………藤井康栄(松本清張記念館館長)
- 記念館レポート

記念館地下ミュージアムショップにて販売中 定価 500円

松本清張記念館



松本清張ってどんな人?
松本清張記念館はどこにあるの?
記念館ってどんなところ?
記念館の中には何があるの?
知りたい人は即アクセス!


<http://www.kid.ne.jp/seicho>


- 松本清張について
- 館内案内
- イベント
- 研究センター事業
- 館報 第1号
- アクセス・料金 等